

令和元年度

民間企業等長期派遣型研修報告書

令和2年12月

静岡県教育委員会

事業概要

区分	内容
目的	教育職員が民間企業等の最新かつ実践的な組織運営、技術、技能、システム等を学ぶことにより、教科等の指導技術や能力等の伸長による児童生徒への指導力の向上、視野の拡大と発想の転換等による意識の改革、時代の変化に対応できる学校づくりの推進等に資する。
派遣先	民間企業等
対象	<ul style="list-style-type: none"> ・45歳以下で静岡県教育職員としての職務経験が5年以上の者 ・小中学校、義務教育学校、高等学校の専門教科（農・工・商）、特別支援学校の教員等の中から選考
期間 (人数)	小中学校、義務教育学校：6か月(2人)／高等学校：12か月(3人)／特別支援学校：6か月(2人)

目次

◆研修生の報告

	所 属	氏 名	研 修 先	研修 期間	ページ
1	県立小笠高等学校	山下 高充	株式会社サンファーマーズ	1年	1
2	県立伊豆総合高等学校	水野 絢介	株式会社大石組	1年	3
3	県立静岡商業高等学校	杉山 暢啓	株式会社静岡朝日テレビ	1年	5
4	県立藤枝特別支援学校	杉浦 昭久	矢崎計器株式会社島田製作所	6か月	7
5	県立掛川特別支援学校 御前崎分校	小倉 雄太	イオンリテール株式会社 イオン浜松西店	6か月	9
6	裾野市立深良中学校	望月 悟志	株式会社Z会	6か月	11
7	磐田市立城山中学校	中澤 祐介	浜松光電株式会社	6か月	13

◆派遣先企業等の声

15

◆資料

17

研 修 先	株式会社サンファーマーズ
研 修 期 間	平成31年4月1日～令和2年3月31日
学校名・職・氏名	県立小笠高等学校 教諭 山下 高充

<研修の内容>

- 1 パッキングセンターでの研修
箱詰め・出荷作業、ブランド・品質管理、パート職員対象の研修（ランチ研修・チームミーティング）
- 2 農場での研修
アメーラの栽培管理（有限会社ハニーポニック・営農組合アメーラ倶楽部）
ルビズ栽培管理・農福連携農場の栽培支援（株式会社サンファーマーズ直営藤枝農場）
- 3 出張を伴う外部での研修
技術検討会（軽井沢農場、富士小山農場他）、品質検査（トマトの成分分析）、アグリフードエキスポ、販売対策会議、静岡県農業法人協会講演会、GAP認証に関わる研修

<研修を終えて>

1 はじめに

学校に勤務するようになって十数年が経過するが、近年、民間企業で働く友人と話をすると、対人関係や感覚面においてずれや弱さを感じるようになっていた。そんな折、長期派遣研修のお話をいただき、せっかく一般社会で働くことができるなら対人関係能力、金銭感覚や経営、目標達成意識等、ビジネスを通じて私が知らない社会の流れや常識を知りたいと強く思った。また、近年、ビジネス経営体の農業を行う農業法人が増え、県立農林大学校を卒業した学生の就職数も増えていると聞いていたため、農業法人の実際を知り、進路指導に活かすことも目標の一つとした。

2 研修先の概要

株式会社サンファーマーズは、高糖度トマト・アメーラを生産する9戸の農家（農業生産法人）が出資して運営されている会社で出荷やマーケティング、ブランド管理、技術指導等を行っている。現在、旧大井川



町、長野県軽井沢町、富士宮市朝霧、小山町、スペインに生産団地を展開しグループの栽培総面積は22.5haに上る。グループの正社員の約6割を20～30代が占め、若い世代の意欲と希望に満ちた農業法人である。

3 研修を受けての感想

(1) 人間関係づくり・人への配慮

本研修で一番参考になったのが、人間関係づくりの奥深さである。私が主に勤務したパッキングセンターでは40名程のパート職員を雇用していたが、正直ここまで気を遣うのかと驚かされるほど、正社員とパート職員間、パート職員間、それぞれの関係づくりに多大な労力を掛けていた。チームミーティングやランチ研修も定期的実施し、職員同士の人間関係の維持や改善、意思の疎通を図る努力が見られた。私もパート職員と一緒に選果・箱詰めのラインに入る中で微妙な感情の変化等を感じ、コミュニケーションはそんなに簡単なものではないことを学んだ。さらにちょっとした人間関係の違和感が作業能率に影響し、人件費等の問題に絡んでくることも知った。今後は、そもそもコミュニケーションは勘

や素で行うべきものではない難しいもの、周到に行うべきものという認識で生徒や先生方にアプローチしていきたい。

(2) 生徒の気持ちを味わった

研修は、生まれて初めて会う人、見る物、やる事に囲まれた一年で心配になったり緊張することが多かった。そんな時、本当に有り難く心強かったのは、声を掛けてくれることや丁寧に説明し教えてくれること、話だけではなく実物が目の前にあること、知らない、できないことを分かってくれること等であった。これは、まさに学校生活を送る生徒の気持ちそのものであると思う。人を大切にすることや人への配慮について心の底から考えた。学校復帰後はこの気持ちを忘れないで授業やクラス運営に当たりたい。

(3) ビジネス経営体の農業・スマート農業の理解

農場では、サンファーマーズ独自の高糖度トマト栽培に触れ、その特異性に驚いた。また、これまで、家族経営主体の農業観しか持ち得なかったが、大資本、大規模経営、大量生産が生み出す事業としての農業を見て、これまでに無かった新たな農業観を持つことができた。さらに感覚ではなく数値から作物を作るスマート農業の時代がすでに始まっていることを実感した。農業経験ゼロの人が農業経営をやる時代であり、時代に対応した未来志向の農業教育が今後は必要であると感じた。雇用面について研修先の会社では給与や福利厚生、休日の年間スケジュール等が遵守され、何より一社員でも目標を持ち、達成のために工夫や努力ができる自己実現が可能な職場であった。今後、農業を学んだ高校生の進路先として農業法人は十分紹介可能な職場であるとの認識を持った。

(4) 夢や理想を持ち挑戦し続けることの尊さ

研修中、グループや他の農業法人の経営者から話を聞く機会があった。経営者に共通していたのは、リスクを恐れず志を抱き、後ろを向かず挑戦するという姿勢であった。また、研修先の会社では、ブランド創出や海外進出など、前例の無いどんなものか分からないものを形にしていく0から1を作り出す精神を感じた。ある役員からは「子ども達に小っちゃくまとまらず大っきく夢を持った人間になって欲しい。アメラでの体験を存分に語って夢がある生徒を育てて欲しい」と言われた。現代は、閉塞感にあふれ、未来に可能性が見えてこない時代であると思うが「こんなこともできるぞ、こんなことはどうだろう、明るいぞ、面白いんだぞ」と希望を膨らめてあげる、目的を持たせてあげられるような教員になりたいと思った。

(5) 農業は福祉に貢献できる

勤務先では障害者雇用や障害者施設に一部業務委託を行っており、私も3名の特別支援学校卒業生と一緒に仕事を行った。単純・繰り返し作業など農業と福祉はマッチングが強いことを学んだ。全国的に農福連携を進める農業法人が増えてきているようであり、農福連携という視点の授業も行ってみたいと思った。

4 おわりに

株式会社サンファーマーズで研修をさせていただき本当に良かったと思う。前項では記載できなかった組織づくりやマネージメント、金銭感覚なども学ばせていただき、自らの世界が広がり、学校に戻ったら是非挑戦してみたいと思うことがたくさん浮かんだ一年であった。アメラグループのように前を向き肯定的に果敢に挑戦していきたい。

最後に研修を受け入れてくださり、惜しげなく会社全体を見せ、勉強させてくださった株式会社サンファーマーズ、アメラグループ全ての皆様に厚く御礼申し上げます。本当にありがとうございました。

研 修 先	株式会社 大石組
研 修 期 間	平成31年4月1日～令和2年3月31日
学校名・職・氏名	県立伊豆総合高等学校 教諭 水野 絢介

<研修の内容>

- 1 平成30・31年度 富士宮市役所 庁舎長寿命化工事（議会棟区） 現場監督補佐
- 2 令和元年度 富士宮市立北山中学校管理教室棟耐震補強工事 現場監督補佐
- 3 株式会社富士朝霧ファーム研究所（育成棟・成鶏棟） 新築工事 現場監督補佐

<研修を終えて>

1 はじめに

建設業界では、担い手確保・育成が課題である。建築科目を学習した生徒が進路選択をする際に、施工の職種を希望する生徒は少ない。地元建設業者で研修を受けることにより、企業で求められる人材の育成の参考にするため、研修を希望した。

また、実際の現場で求められることを知り、高校で学習する建築の基礎学習と実務の関連付けをすることも研修の目的の1つであった。

2 研修先の概要

株式会社大石組は、昭和28年に製紙関連会社の機械据付工事業者として個人創業し、昭和42年、株式会社大石組として総合建設会社を設立し、地元建設会社として公共工事や民間工事の土木工事・建築工事を担っている。

研修では、現場監督補佐として、富士宮市役所庁舎長寿命化工事（議会棟区）、富士宮市立北山中学校管理教室棟耐震補強工事、富士朝霧ファーム研究所新築工事（育成棟・成鶏棟）に配属され、各種専門工事業者の作業を見学させていただくとともに、現場監督の様々な業務に携わらせていただいた。

3 研修を受けての感想

(1) 安全教育について

建設現場では、安全に関わる活動が多くあった。新しく現場に入る職人に新規入場者教育により、現場のルールを徹底させ、健康管理を行った。また、各種専門業者ごと始業前に危険予知活動を行い、朝礼でその成果について共有を図った。さらに、社内安全パトロール、富士地区建災防安全パトロール、労働基準監督署立入検査にも参加した。安全な労働環境づくりのために様々な対策がとられていることを知った。今後、学校では、この現場での経験を活かし、実習棟内に安全標識・安全掲示板の設置や安全通路の明示などの環境整備を行うとともに、実習系科目において、危険予知活動や安全点検活動などの安全教育を取り入れたい。生徒の安全意識の向上を目的とし、生徒が主体的に活動できる方法を考えていきたい。

(2) 施工管理業務

研修では、着工から完成までを1つの現場で体験をすることができなかったが、複数の現場に配属されたことにより、建築行為である、企画→計画→設計→施工→完成→改修、解体を経験することができた。施工管理業務のうち、施工体制台帳の作成やCAD図面の作成、積算業務に携わったことは貴重な経験であった。富士宮市役所の外壁タイル剥落防止工法、北山中学校の耐震補強工事は、これか

らの建築業界に多く求められる長寿命化・改修工事で、教科書では学ぶことが困難である最新技術が必要な分野を経験できた。今後の授業において、建築の基礎学習だけでなく、現在の建築業界の情報も取り入れていきたい。また、土工、とび、塗装、防水、大工など多くの専門工事業者の準備から作業、片付けまでの管理業務に携わった経験を生かし、建築実習指導において、道具の使い方や管理方法、実習材料や実習方法の適切な選択を行っていききたい。

(3) 担い手育成

建築業界では、担い手の確保と育成、離職率の高さが課題である。研修中にも施工管理や各種専門業者の全体的な人材不足と若手技術者の少なさを痛感した。建築に興味を抱いて高校に入学した生徒に対して、教科指導を通して基礎的な知識と技術の習得を行うだけでなく、建築業界の魅力ややりがいを伝えるとともに、地域の建築業者との連携を図り、インターンシップやマイスター制度に留まらない実践的な学習の場の提供や実務的な免許や資格の取得支援などを行い、地域の建築業を担う人材の育成を行っていききたい。

4 おわりに

建築科目担当者として、建設業界の担い手の育成に力を注いでいきたい。研修で体験させていただいた実務を教科指導で生かしてだけでなく、教育課程や授業内容の改善を提案し、建設業界をよく理解し、離職率の高い業界内でも地元建設業界で長く務めることのできる人材の育成を行いたい。また、施工管理の経験を通して、科目「施工」の授業だけでなく、実習系科目の作業において、学習と建設現場を関連付けた指導を実践したい。さらに、研修で学んだ安全衛生管理についても学校現場に持ち帰り、生徒の学習環境の改善に努めていきたい。

最後に、研修を引き受けていただいた株式会社大石組の皆様と研修を担当していただいた教育委員会事務局の皆様へ感謝申し上げます。



研 修 先	株式会社静岡朝日テレビ
研 修 期 間	平成31年4月1日～令和2年3月31日
学校名・職・氏名	県立静岡商業高等学校 教諭 杉山 暢啓

<研修の内容>

- 1 静岡朝日テレビが運営するイベントに関する研修（4～9月：総合ビジネス部）
キャンピングカーショー（エコパ・北海道）・ラーメン女子博・フードソニックの運営等
- 2 静岡マラソンに関する研修（10～3月：静岡マラソン事務局）
「めざせ静岡マラソン！プロジェクト」の準備運営、エントリー業務、問い合わせ対応、ボランティア説明会運営、コースガイド制作、ホームページ・フェイスブック更新 等

<研修を終えて>

1 はじめに

私は民間企業が取り組むマーケティングに興味があり、この研修を希望した。特にイベントについて、どのようなマーケティングが展開されているのかを学んでみたいと思っていた。そこで、商業科の教員と陸上競技部顧問の経験を活かすため、「静岡マラソン」を主催する静岡朝日テレビを希望した。上半期は総合ビジネス部で、グルメ・キャンピングカー等のイベントについて学び、下半期は静岡マラソン事務局で静岡マラソンの実施に向けた業務を経験した。



2 研修先の概要

『株式会社静岡朝日テレビ』 開局：1978年 売上：96億円（2018年3月）
従業員：約150人（男性約90名・女性約60名） 勤務時間：9時30分～18時00分（週休2日）
マラソン以外のイベントは総合ビジネス部が担当（総合ビジネス部12名）
2019年度から静岡マラソン事務局が新しい部署として独立（マラソン事務局は6名）

3 研修を受けての感想

- (1) イベント主催者（主担当者）に大切な準備「救護計画」

1年間、静岡朝日テレビでイベントを中心に勉強してきて、最も重要だと感じたことは『（来場者の）命を守ること』であった。5月のキャンピングカーショー（エコパ）は30℃近い気温となったため、本部が体調を崩した来場者の様子を見ることとなった。8月の北海道キャンピングカーショーは台風一過で気温は30℃を超え、冷房設備のない屋内会場だったこともあり、一人の高齢者が体調を崩し救急搬送された。10月のマラソンイベントでは、季節外れの暑さから熱中症になってしまった参加者がいた。2月のマラソンイベントは穏やかに晴れ、風もなく絶好のマラソン日和であったが、自分の実力を越えて頑張ってしまった参加者の一人が痙攣を起こし救急搬送することとなった。命に関わるトラブルの中、すべての現場で、冷静かつ的確に対応できる社員の存在と救護計画が準備されていたため大事には至らず、イベントを継続することができた。



そして2月、新型コロナウイルス感染拡大の影響を受け、静岡マラソンの中止が決定した（駿府マラソンから45年の歴史で初）。それもランナー、ボランティア、審判員、応援者など大会に関わる全ての方の「命を守るため」の決断であった。民間企業は収支に敏感で、イベントを

会社の利益につなげるために取り組んでいることは間違いない。しかし「命を守る」準備は、イベントの大小に関係なく、必ず意識していることに気付くことができた。

(2) テレビ局がイベントを開催する意義

テレビ局がイベントを開催する意義は、『会社のブランド力の向上』という話を伺った。さらにブランドには「圧倒的な存在感」「絶対的な信頼感」「外部の人間からの憧れ」「内部の人間の誇り」が必要であるとのことであった。中でも「内部の人間の誇り」が最も重要だと教えていただいた。静岡朝日テレビには「静岡マラソン」や「マグロック」など、競合他社には真似できないイベントが存在する。会社を代表するイベントは事業局だけではなく、様々な部署がイベント成功に向けて協力している。その連携ぶりは「会社にとっての誇り」から生まれるものではないかと感じた。目先の利益より「会社のプライドにかけてこのイベントを成功させる」という雰囲気があるからこそ、周囲から評価され、長年継続されるイベントになり、最終的に会社に大きな利益をもたらすことを学ぶことができた。

またイベントプロデューサーの働きぶりを見てきて、企画の立案から、会場設営関係、スタッフ関係、広報関係、予算関係などすべての指揮を担っていることに気付いた。この役割には、企画力、判断力、交渉力、統率力などが必要であり、知識だけで身に付くものではないと考える。「コト消費」が注目される今、高校生がイベントについての実践的な学習に取り組むことが、今後の商業教育には必要なことであると感じた。今回の研修を活かし、高校生がイベントの企画から運営までを経験できるような機会を作っていきたいと考えている。

(3) 『もの凄く！スピード！！メディアからソリューションへ』

静岡朝日テレビのオフィスには本項目タイトルの貼り紙がある。10月12日、台風19号の特別番組がこの言葉の意味を理解するきっかけとなった。この日、看板番組の「とびっきりしずおか（土曜版）」は、9時半から6時間に渡り、県内



各地からの中継を交えながら台風に関する内容のみで番組を進めた。視聴率は他局を大きく引き離し民放1位。地域に密着した台風報道は県民から絶大な支持を得た。県民はこの台風報道で得た情報を活用し、身の安全の確保に努めたと思われる。情報そのものも、情報を発信する技術、手段も充実している今だからこそ、テレビ局は視聴者の生活や心情に寄り添い、視聴者が求めている情報を求めている形で発信しなくてはならない。発信した情報によって、視聴者の問題を解決していくことが、メディアに求められているソリューションではないかと思えることができた。商業の授業においても、資格取得で満足するのではなく、得た知識を活用する力を付けていく必要があると改めて感じた。

4 おわりに

1年間、民間企業研修を経験させていただいたことで、社会人として今の自分に足りない部分や、今後就職を目指す高校生に伝えたいことをたくさん見付けることができました。また民間企業側の立場で学校や役所等と関わる機会もあり、公務員のイメージを知ることもできました。

株式会社静岡朝日テレビでは、社員の皆様に本研修についてご理解いただき、若手からベテランまで多くの方々に、仕事の取り組み方や考え方を教えていただきました。明るさと向上心を持った会社で本研修ができたことを本当に嬉しく思います。ありがとうございました。

研 修 先	矢崎計器株式会社島田製作所
研 修 期 間	平成31年 4 月 1 日～令和元年 9 月30日
学校名・職・氏名	県立藤枝特別支援学校 教諭 杉浦 昭久

<研修の内容>

- 1 現場研修前教育（総務、トレーニングルーム）
- 2 現場研修（第2組立、印刷加工、成形加工）
- 3 障害者雇用について（印刷加工、成形加工、総務）



<研修を終えて>

1 はじめに

私は今回、二つの目的を持って研修に臨んだ。

第1は製造の現場において、実際に作業する中で、企業の定める手順の通りに作業し、安全に配慮し続けることである。第2は現場での取組や、安全、情報セキュリティ等が整備された環境で研修し、会社の一員として実践する中で、教育現場で生かせることを得ることである。

2 研修先の概要

矢崎計器株式会社は、自動車メーター、デジタルタコグラフをはじめとする運行記録計等の開発・設計・生産を手掛け、安心・安全・快適なクルマ社会の実現を目指している。

島田製作所においては、自動車用計器を主要品目として製造している。

3 研修を受けての感想

事前の教育研修では、工場見学、セキュリティに関すること、コンプライアンスに関すること等の研修を行った。

会社の敷地内は安全に関わる表示が明確に示されていた。情報の環境として、全ての人が気付き、実践することができるということが重要だと感じた。学校も同じように多くの車両や人が行き交う場所である。個人の意識と環境を整えることで安全を確保していきたいと思った。

セキュリティに関することでは、IDカードで建屋への入退室が管理され、さらに出勤・退勤の時刻も管理されていることを知った。勤務時間を明確にすることは、業務内容の違う教員（学校）でも、働き方を変えるために有効なことだと感じた。

コンプライアンスに関することでは、法律を守ることだけでなく、社会の常識を守り、社会から期待される行動をとり、社会の期待に応えることが大切だと分かった。働くための技能とともに重要なのは、生きる力で、矢崎計器株式会社においての5S（整理、整頓、清掃、清潔、しつけ）は、まさにこのキーワードになると感じた。それは、掲げただけでは意味はなく、実践することに意味がある。学校教育の現場では、小学部の段階から取り組むべき要素だと感じる。そして具体的な場面や活動を教員がイメージし、指導できる環境が整うようにしたい。

現場での研修は、第2組立、印刷加工、成形加工の3部署で行った。

第2組立では、メーター組立ラインへの部品供給と組立ラインへ供給する前段階の部品の組付け等の作業を担当した。道具や部品の扱い方、作業のやり方が分かり、ある程度の時間、経験を積んでいくと、作業速度も正確性も向上していくと感じた。慣れるまでの期間どれだけ自分から積極的に作業の方たちと関わることが重要だと感じた。特別支援学校の生徒の中には、コミュニケーションを課題としている生徒が多い。周囲の者と関わることの大切さと、効果を生徒に伝えながら、前

向きなコミュニケーションの方法を指導していく必要があると感じた。

印刷加工では、部品看板の読み込み、部品棚入れ、文字板の透過検査（画像）、プレス前穴あけ作業、廃棄物運搬の作業を行った。

部品棚入れのために台車で部品を運搬しているときに、台車をコンテナに接触させ、部品を倒してしまうことがあった。進む方向にコンテナがあることは分かっていたが、事前の確認不足と台車の操作ミスで起きた事故であった。倒してしまったことで、部署の皆さんに迷惑を掛けてしまった。直後の部署の皆さんの対応が迅速で、倒してしまった部品の今後の流れの確認、障害物になり得るコンテナの置き方についての確認、事故を起こした私への指導・助言等、作業の方たちの役割が明確で、連携が取れていると感じた。一度起こした事故を、もう一度起こさないことの重要性を再確認できた。具体的な対策の一つとして、部品を台車に置くときに配慮が必要であった。前方が見える高さに積むこと、倒れにくい向きで部品を置いて積むことなど、効率の良さや安全性の両方が、バランス良く確保されていないといけないということが分かった。今回は効率の良さのみを優先させてしまったことで起きた事故であった。学校の中でも事故が起こることがある。予測できることについては、事前に環境を整えるなど、予防をしておく必要がある。予防をしておくことで児童生徒の怪我や不安定になる確率を低くしたい。安全な環境と、気持ちの安定が基盤となり、学習の積み重ねがあると感じている。また、予想できるあらわれについても、チームで共有しておくことが重要だと思う。安全と指導・支援の充実のために共有したい。事故後の対応についても今回の現場の方たちのようにチームワーク良く、迅速かつ誠意を持って対応したい。

何度か部署が変わり、その度に新しい仕事を覚えることや新しい部署の方たちと一緒に仕事をするという経験をした。仕事を覚えるには、経験とコミュニケーション、効率を上げるには工夫が必要だと感じた。新しい部署での作業の方との関係作りには、時間が掛かることが多かった。他の作業の方自身も自身の仕事があるため、長時間、私のような新しい作業者と関わってはいられない。はじめは、こちらから様子を見ながら関わっていくことが必要であったし、分からないことがあったら、自分から積極的に相談していく必要があった。日数が経過し、ある程度仕事ができるようになると、周りの作業の方から声を掛けてもらえるようになった。仕事ができ、信頼されるようになると関わりが増えてくる。職種によっては、自分の仕事だけをしていれば、勤務時間内、誰とも話さなくて済んでしまうような仕事もあると思うが、教員という仕事は人と関わる仕事であり、人との関わりが重要な職業だと思う。この研修当初の自分自身のように、新しく職場に来る人は不安や分からないことを抱えている。そのマイナス要因を少しでも減らしていくことが、先輩としての勤めであり、責任だと思う。私は、まわりの教員と積極的にコミュニケーションを取ることで、職場全体の雰囲気をもよくし、仕事の効率、効果の向上を目標に、今後も取り組みたいと思う。

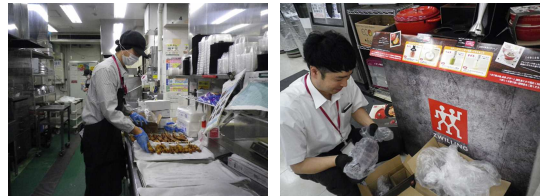
4 おわりに

今回、私の研修を受け入れていただいた矢崎計器株式会社島田製作所の皆様に感謝いたします。6か月の研修で体験したこと、得たことを教育の現場で生かせる形に変換し、児童生徒に対して効果的な指導・支援ができるよう、実践を通して職員に伝達していきたいと思っております。今後も仲間と協力していきたいと強く思います。充実した研修となりました。ありがとうございました。

研 修 先	イオンリテール株式会社 イオン浜松西店
研 修 期 間	平成31年4月1日～令和元年9月30日
学校名・職・氏名	県立掛川特別支援学校御前崎分校 教諭 小倉 雄太

<研修の内容>

- 1 デリカ業務
商品のパック詰め、各種弁当づくり、餃子づくり
- 2 販売促進業務
各種イベント準備・参加、掲示物作成・掲示・発注、チアーズクラブ活動、会議参加



<研修を終えて>

1 はじめに

私がイオンリテール株式会社イオン浜松西店を研修先として希望した理由は大きく分けて二点ある。一点目は、誰もが知っていて、規模の大きな企業でもある「イオン」の経営の仕組みや育成システム、お客様の需要を考慮した戦略を学びたいと思ったこと。二点目は障害者雇用を積極的に行っている店舗で、雇用条件や職場での姿、課題について詳しく知りたいと思ったこと。

上記のことは、産業現場等における実習で各企業に話を聞くことはできるが、時間を取って詳しく聞くことができる機会はほとんどない。私が実際に現場で働き、経験をすることで、今後の進路指導や生徒指導に実体験を交えた具体的な指導ができるのではないかと考えた。

2 研修先の概要

1980年ジャスコ浜松西店として開店し、その後店舗名の改称や店舗面積増築等を経て、現在のイオンリテール株式会社イオン浜松西店となった。従業員数は約300人（社員40人）となっている。イオングループとしては2019年度現在、従業員数約58万人、店舗数21996店で7期連続営業収益日本小売業1位となっている。基本理念は「お客様を原点に平和を追求し、人間を尊重し、地域社会に貢献する」であり、この理念のもと、お客様第一を実践している企業である。

3 研修を受けての感想

(1) お客様第一

イオン浜松西店の特色として、近隣に閑静な住宅街が点在しており、そこに住む常連客やシニア層をターゲットとしている。お客様の需要に合うように各売り場は思考を凝らしている。例えばデリカではおはぎを多く販売していて曜日や行事などによってその販売数も異なる。また、お客様向けのラジオ体操をしていて出席者は常連のお客様が多く、その後の買い物効果もある。販売ばかりではなく、視点を変える重要性を学ぶことができた。

(2) 働く喜び、やりがい、楽しさ

半年間研修をする中で、働く「喜び」「やりがい」「楽しさ」の大切さを改めて感じる時があった。デリカ業務では、私の作った弁当が売れて売り場からなくなる時、お客様から「〇〇弁当が欲しい。」と直接声を掛けてくださった時など、私が作ったものを「必要としてくれている」と思った時に喜びややりがいを感じる事ができた。販売促進業務では、各種抽選会で当たりをひいたお客様から「いつもやってるけど初めて当たった。また来るね。」ととても嬉しそうな顔を

して話してくださった時や、イベントで私が準備した景品に長蛇の列ができた時、私が選んだ景品を「ちょうどこれが欲しかった。」と喜んでくださった時なども喜びややりがいを感じることができた。このように喜びややりがいが積み重なると、次第と仕事が楽しくなっていくことにも気付くことができた。

改めて「私はなぜ教員の仕事を続けているのだろう」と振り返ると、自分なりの喜びややりがいがあるからだと感じた。例えば、ある生徒のために作った教材がその生徒に合っていて、できなかったことができるようになった時、授業に意欲的な顔をして取り組む生徒を見た時、コミュニケーションが苦手な生徒が卒業式で自分から「先生、ありがとう。」と伝えてくれた時など、喜びややりがいは仕事をする上でとても大切なことだと感じることができた。

生徒の産業現場等における実習は今回の研修期間より短期間なため、実習中に喜びややりがい、その先の楽しさまで感じることができない生徒が大半だと思う。しかし、その生徒なりの好きなこと、得意なこと、やりたい仕事など「どうしてこの会社で仕事をしたいのか」という理由を明確にできれば会社に入ってから喜びややりがい、楽しさを感じるまでの近道になるのではないかと感じることができた。進路指導時には一つの柱として生徒たちに伝えていきたい。

(3) 働く厳しさ

特別支援学校の卒業生と一緒に仕事をして特に重要だと感じたことが二点ある。

一点目は「自己管理能力」である。社会に出れば一人の社会人として見られ、様々な面から厳しい目で見られる事も多くなる。体調管理は基本的なことで、デリカ業務のシフトはその日に必要な人数を調整して組まれている。もし休むことがあれば、自分の担当する予定だった仕事を他の従業員が行わなければいけない。その分、その従業員の負担が大きくなり、他の業務に差し支える場合も考えられる。季節によって不意に体調を崩すことは誰でもあることだが、その日数が増えるほど、信頼を失うことにもつながり、働く喜びややりがい、楽しさを得ることから遠ざかってしまう。また、朝起きて、仕事に行くことが気乗りしない日は誰にもある。しかし、当然だがそれだけで仕事を休む理由にはならない。自己欲に勝ち、自分の仕事に真面目に取り組むことで周りの信頼を得ることにつながることを生徒たちにも伝えていきたい。

二点目は「失敗したときにどうするのか」である。失敗して落ち込み続けたり、その失敗を忘れてしまったりしてはあまり意味はなく、そのときに「どうして失敗したのか」「次はどうしたら失敗しないのか」ということを自分で考える習慣、力が必要だと感じた。以前、学習中に失敗しそうな生徒に手を差し伸べてしまったことがあった。今思えば、あの生徒は失敗をすることで、どうしたら次に失敗しないようになるのかを考えたり、行動したりすることができたのではないかと反省した。自己肯定感や成就感を育てることも大切だが、あえて失敗を見守り、その後どうしたらよいのかを伝えることも大切なことだと感じた。

4 おわりに

半年間、本研修で学んだことは報告書では書ききれないほどの密度の濃いものであり、経験したことの多くが教育に生かすことのできるヒントであった。それらを生徒や他の先生に伝えたり、具現化したりすることが私の使命であり、御指導して下さった上司や従業員の方々への恩返しだと感じている。

最後に、大変お忙しい中、私を研修生として受け入れていただき、温かく御指導して下さったイオンテール株式会社イオン浜松西店の方々に深く感謝申し上げます。ありがとうございました。

研 修 先	株式会社Z会
研 修 期 間	令和2年9月1日～令和2年2月29日
学校名・職・氏名	裾野市立深良中学校 教諭 望月 悟志

<研修の内容>

- 1 Z会Asteria総合探究講座の運用
協働学習資料作成 ファシリテーターへのアドバイス 探究学習講師依頼 事後課題添削
- 2 Z会プログラミング教室 アルゴリズム入門コース講座の運営（11月：立川教室 12月：渋谷教室）
Swift Playgrounds（当日使用するアプリ）研修 受講生指導 メンター指導
- 3 社外研修
武蔵野大学中学校授業見学，相模原市立相原中学校授業見学，ICT導入に関する勉強会，対話や学びが深まる「問い」のつくり方講座

<研修を終えて>

1 はじめに

学校を離れ、民間企業で半年間研修、しかも同じ教育関係のZ会で行うと聞き、正直戸惑った。しかし、同じ「教育」というものを、違った角度から考えるいい機会になると考えた。また、目の前に生徒のいない「通信教育」にも興味があった。Z会が扱っている商品や外部での研修への参加などにより、これからの教育の基盤となるICT関係の知見を広げることを目指し、本研修に臨んだ。

2 研修先の概要

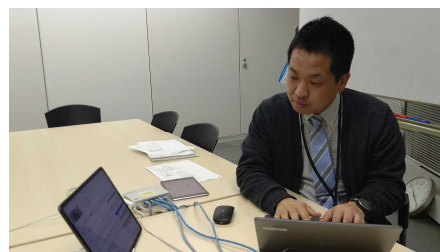
1931年実力増進会として創業 2006年より社名をZ会に改名

「百の聴講よりも一の実践」をZ会の教育の原点とし、通信添削事業の基礎とした。Z会では88年以上の長きにわたり、常に会員を第一に考える親身な教育指導を実施。現在では、教育に対する想いを同じくする様々な企業がグループの一員に加わり、総合教育グループに発展した。Z会の原点である通信教育事業をはじめ、教室事業、法人事業、語学・留学事業、療育・就労支援事業、海外事業など、様々な事業を展開している。

3 研修を受けての感想

(1) Z会Asteria総合探究講座の運用

総合探究講座は、iPadを使って、オンライン上で受講生がグループとなり、各月のテーマについて話し合っ、課題解決能力の向上を図るものである。事前に、そのテーマでどのようなことを受講生たちに語り合ってもらいたいかを考え、問いと資料を準備して講座を行ったが、こちらが期待した通りにならないことが多かった。その原因を検討し、よりよい内容になるように、「明確な問い」、「ファシリテーターの関わり方」、「1時間の講座の流れのデザイン」などについて検討した。この講座の運営に携わり、通信教育の難しい部分である「相手が目の前にいない」ということを痛感した。相手がどのように教材を捉え、何に困り、どのように関わればいいのか、すべてを手探りで対応しなくてはならないため、教材作成からそのことを重点に置き、細かな部分まで配慮することの大切さを感じた。



(2) Z会プログラミング教室 冬期 アルゴリズム入門コース講座の運営

Z会が携わっているプログラミング教室の講師を行った。受講生のほとんどが自発的に課題に取り組み、プログラミングの基礎を身に付けていった。扱った教材の出来が良かったのもあるが、今の子どもたちのICTに対する適応力の高さに驚いた。プログラミング教育のねらいに「児童がプログラミングを体験しながら、コンピュータに意図した処理を行わせるために必要な論理的思考力を身に付けるための学習活動」があるが、これはどの教科の授業でも扱うべき内容であると感じた。その意識を教師側が持ち、生徒に伝えていくことが大切であり、なんとなくで終わっていた理解を、自分の言葉で整理し、しっかりと知識として身に付け、様々な場面で活用できるようにしたい。

(3) 社外研修

ICTが充実してきている中で、実際の学校でどのように活用されているのかを知るために、様々な現場に研修に行った。1人1台タブレット教育を行っている都内私立中学校の授業や、AIを活用した個別最適化学習を行っている授業を実際に見学することができた。授業を受けている生徒は集中しており、成果も出ていることを伺った。今後、このような授業が全国的に広がっていくことになると思うが、教科の特性や教員の力量によって差が出てくることが予想される。今後の研修やハード面の充実によって対応していきたい。



また、実際に「iPad」、「Chromebook」、「タブレット (Windows)」、「Macbook」という4つの異なるOSを導入した学校の話を知ることがあり、それぞれのOSのメリット、デメリットを体験談を交えてご教授頂いた。その中で「フィルタリングについて」の話があった。1人1台ICTを導入している学校の方が「フィルタリングで規制するよりも、どうやって使うかを考えるリテラシー教育が大切」とおっしゃっていた。どんなに規制しても必ず隙間があったり、規制することにより幅広い活用ができなくなったりなど、問題も多くある。使うことに対する責任を学ぶためにも、リテラシー教育を充実させることの大切さを痛感した。

ICT教育以外にも、「問い」に関する社外の研修に参加させていただいた。授業1時間の流れを「問い」によってデザインし、論理的に授業を組み立てることにより、どのクラスでも再現性が高い授業を行うことができるようになる。クラスによって、生徒の様子や授業での反応は様々であり、それに対応することも教師に必要な力である。しかし、どのような反応が出るかは「問い」の質によってある程度予想できる。だからこそ、その後の展開を意識した「問い」をしっかりとデザインできれば、どのクラスでも再現性の高い授業ができるようになることを学んだ。

4 おわりに

この研修を通して、違った角度から「教育」というものを考えることができた。普段、生徒と関わりながら授業をつくっていくことが当たり前であった。しかし、その当たり前がなくなったとき、いかに自分のデザインが甘いかわか痛感した。Z会の社員の方は、常に受講生の反応を予想し、言葉一つにこだわりを持って教材を作成しており、見習うべきであると感じた。

最後に、このようなすばらしい機会を与えてくださった静岡県教育委員会及び学校関係者の皆様、私を受け入れ、温かく指導し、一緒に教材研究や研修に参加させてくださった株式会社Z会の皆様に深く感謝いたします。

研 修 先	浜松光電株式会社
研 修 期 間	平成31年4月1日～令和元年9月30日
学校名・職・氏名	磐田市立城山中学校 教諭 中澤 祐介

<研修の内容>

- 1 会社理解(ものづくり工程の理解)
- 2 改善手法の習得
- 3 経営的な視点の習得

<研修を終えて>

1 はじめに

予測困難な時代に、一人ひとりが未来の作り手となるため、新たな学習指導要領が示された。持続可能な働き方のもと、社会に開かれた教育課程を実現するためにも、カリキュラム・マネジメントやチーム学校として組織的な資質・能力の育成が重視されている。よって、今回の研修の目標である経営的な視点の習得は教員に必要であり、企業の経営技術を学校現場に展開することの意義は大きい。

2 研修先の概要

研修先の浜松光電株式会社は、AMRセンサ、圧力センサ及び各種センシングユニットの開発・設計・製造・販売、浜松ホトニクスグループとしての光センサ製造を行っている。常に「お客様の抱える問題点」を探り出し、そこにジャストフィットさせる製品を開発している。



3 研修を受けての感想

(1) 社会に必要な資質能力

一つ目に、「一歩前に踏み出す力」である。興味を持ち、粘り強く挑戦し続け、改善してゆく力の必要性を感じた。やればできるという成長マインドセットを持ち、新たなやり方や可能性を求め、試行錯誤を通して成長しようとするのが自分の人生を切り拓いていく上で重要であると学んだ。これは、「学びに向かう力・人間性等」に関連すると考える。

二つ目に、その状況や環境との関係性の中で、そのものが持つ意味に気づき理解することが大切であると学んだ。「既にあるものがなぜそうなのか」の視点から、問いを見出し理解することが必要である。また、「今まではいいことが、いつまでもいいことではない」という変化に対応する必要性も学ぶことができた。これは、「生きて働く知識・技能」に関連すると考える。

三つ目に、データを根拠にした論理的な思考と、根源的な原因を解析する技術の必要性を学んだ。自分で納得解をつくり、他者との合意形成で最適解とし、最善解を目指して改善してゆくことが、激しい変化に対応する上で必要であると再確認した。これは、未知の状況に対応する「思考力・判断力・表現力」に関連すると考える。

これらの資質能力は、子供たちだけでなく、自分自身も学び続ける教師として必要であり、変化に対応する学校をつくるためにも高めるべき力であると考えます。

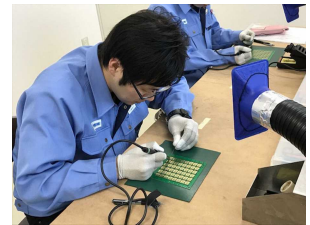
(2) 経営的な視点で見るカリキュラム・マネジメントとチーム学校

一つ目に、7Sなどの、ソフト面とハード面のバランスの重要性を学んだ。企業では、方針展

開時にも、社長方針からチーム目標まで、随時連鎖して展開されている。さらに、他部署との交流を持ち、人と物と情報の交流がよりスムーズに行われるよう改善が行われている。学校現場では、学校の教育目標を踏まえた教科横断的な視点で、教育内容を組織的に配列することがより重視されている。内容の関係性をフレームでつくる組織構造だけではなく、学校教育目標が掲げる子供の姿を共有し、教科でアプローチは違えども、目指す生徒像を職員全員が共有し授業に臨むなど、ソフト面の充実がより必要であると感じた。これは学府の施策も同様である。

二つ目に、分析の方法を学んだ。具体的には、長期間のデータの蓄積から変化の推移を見取ること、ボトルネックの把握、マクロの視点からの全体の最適化、KPIやPPM分析、ミクロの視点から小さく回すPDCAサイクル、段取り改善などの重要性を学んだ。教育現場では、教育内容の質的向上に向け、データに基づき教育課程を編成し、改善を図るPDCAサイクルを確立することがより重要視されている。これらの実現のためには、特にデータの蓄積と共有による、現状の分析と教育活動の効果の分析が必要であると感じた。また、地域を生かした特色ある教育活動にしていくために、SWOT分析などを活用し自校の強みを把握し、魚の目で世の中の流れを読み、生かす重要性を再確認した。

三つ目に、5M(人・材料・機械・方法・金)の視点や、俯瞰して全体を把握する鳥の目の大切さを学んだ。今後、教育内容と教育活動に必要な人的・物的資源等を、地域等の外部の資源も含めて活用しながら効果的に組み合わせることが重要になる。この実現には、子供を取り巻く磐田市の教育全体を俯瞰する必要があると気づいた。例えば、資質能力については、幼稚園教育の10の姿から、社会で働く人の姿までを実際に見て、「今までどのような力が育まれてきたのか」「これからどのような力が育まれていくのか」を実感できた。また、放課後児童クラブ・SC・SSW・コミュニティスクール関係者・支援員・PTA・交流センター・自治会・教育委員会など、教育施設や組織に関わる子供たちの姿を知ることが生徒理解の第一歩であると知った。今後、担任が必要な組織を効果的に活用できる環境づくりが必要であると考えた。また、保幼小中それぞれの指導技術を共有する一時的で限定された場のみではなく、良さや強みを知る意義を共有し、日常的に交流できる関係を学校の中に根付かせられたらよいと感じた。地域や、人と人のつながりで子供を育てていく必要があると感じる。



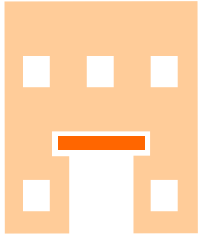
(3) 働き方と業務改善

生産工程のOJTを通して、時間を資源と捉えた生産性向上の重要性とその手法を学んだ。具体的には、業務の洗い出しと精選、ボトルネックの把握と全体の最適化、業務の見える化による管理、間締め、リードタイム(発注から納品までの時間)の削減、山崩し(業務の計画的な平準化)、作業手順書による標準化、内段取りと外段取り、工数管理、5S3Tなどがある。今までの働き方を見直し、無駄を省き生産性を上げることで時間を生み出し、分析や改善にその時間を当て、教育内容の質を高めることを目指したい。特に、活動の計画や準備にかかる時間を見える化し、効果的に時間資源を調整しながら業務改善を目指したい。

4 おわりに

最後に、長期にわたり学ぶ機会を与えてくださった浜松光電株式会社の方々、この研修に携わる教育委員会の方々にお礼を申し上げます。毎日多くの時間を割いていただき、新しい見方を得ることができました。地域の人とのつながりによって、人が育てられることを自ら実感することができた研修でした。今回の学びを、学校現場に戻り、組織や子供たちに還元し地域の人材育成につなげることで、この研修の価値をさらに高めていけるよう努力していきます。

派遣先企業等の声



元気に明るく何事にも積極的に取り組んでいただき、社の模範となる仕事ぶりでした。また、様々な教育やOJTの後には必ず手を挙げ質問をする姿がとても印象的でした。

今回弊社の全ての現場を体験し研修を受けていただき「それぞれの仕事（プロセス）には価値があり、それらの繋がりを理解し全体像を把握（内外の課題、強み弱みを含め）すること。次に短期的な改善目標ではなく将来の目標（ビジョン）を掲げ、中長期的な計画を策定し各部門毎に実践へ移すこと、また、それらの進捗は定期的にチェックしトレンドを分析したうえで必要に応じ次なるアクションに繋げていくこと」以上の経営的視点について、身に付けていただけたものと思います。弊社での教育・研修の大半を終える9月半ばに、幼稚園・小学校へ勉強に行ってもらいましたが、この辺りから明らかに言動も変わり、新たな視点で見たり考えたりできるようになっていただけたと実感しております。

1年間という長期にわたり、普段の学校生活とは異なり建設現場での仕事というのは戸惑いもあったかと思いますが、社員及び職人とのコミュニケーションも良く取れており、熱意を持って意欲的に仕事に取り組んでいただきました。



真面目で熱心であり親しみやすく、チームにもすぐに打ち解けていただきました。

教育や教育サービスに対する課題意識も強く、チームでの議論においても、ご自身の意見をしっかり主張なさっていました。教育ICTに関して当初は不慣れな点もありましたが、積極的に関わっていただきました。

教師としての技術や経験は、弊社でも非常に有益でした。学校現場でのお話や実際の中学生の考えなど、参考になる点も多く、勉強させていただきました。



不慣れな現場での作業、暑さなど厳しい部署での作業など大変お疲れ様でした。

どの部署においても大変真面目に作業に取り組んでいただきました。また、従業員とのコミュニケーションにおいては、それぞれの立場を理解し相手のことを考えた発言、行動には見習うべきところが随所にありました。作業時間内はもちろんのこと、作業時間外（休み時間）等においても、弊社担当者の相談（障がいのある方との接し方など）に乗っていただき、担当からはとても勉強になったと感謝の言葉がありました。



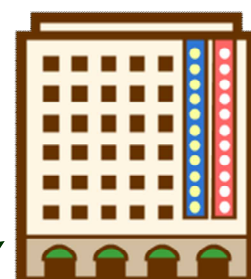
様々な場所で積極的に仕事に取り組んでいただきました。特にパッキングセンターでは貴重な戦力となって、研修終了後に社員を1人増やすことになった程です。

技術検討会や販売対策会議、セミナーへの参加、促進活動にもチャレンジしてもらいました。更に近年取り組んでいる農福連携では、我々の不慣れな露地栽培の指導を先生から受けました。

大変真面目で前向きに研修を受けてくださいました。こちらの要求もほぼ完璧にお応えいただき、人間性の素晴らしさを実感いたしました。

後半を過ぎた時点で、研修部署を増やし、デリカ、販売促進に携わっていただきましたが、どちらの部署でも期待以上の成果を挙げていただき、店としては非常にありがたく受け止めております。

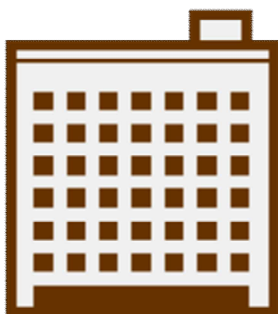
教育の現場と小売業は一見全く関連ないものと捉えがちですが、この研修を通じ、私たちも先生からたくさん学ばせていただきました。



誰からも親しまれる好青年であり、仕事に対する姿勢は、積極的かつ意欲的でした。

特に「静岡マラソン」に対しては、ご自身もランナーであり、陸上部の指導経験者というマラソン事務局にとって最適な人材でした。ランニング教室を運営してもらいましたが、会場手配から準備、報告書作成まで安定した働きぶりでした。事業報告書・業務報告書の類は、簡潔明瞭で完璧なものでした。

この1年間の研修を今後の教員生活に生かして、ご活躍されることを、私共一緒に働いた一同、祈念しております。



(目的)

第1条 この要綱は、教育職員が民間企業等の最新かつ実践的な組織運営、技術、技能、システム等を学ぶことにより、教科等の指導技術や能力等の伸長による児童生徒への指導力の向上、視野の拡大と発想の転換等による意識の改革、時代の変化に対応できる学校づくりの推進等に資するために、教育職員を長期にわたり民間企業等において研修させる派遣型研修（以下「研修」という。）について、必要な事項を定めることを目的とする。

(研修期間)

第2条 研修期間は、原則として1年とする。ただし、研修先等の事情により、1か月以上1年未満とすることも可能とする。

(研修対象者)

第3条 研修対象者は、原則として以下の条件を満たす者とする。

- (1) 市町（地方自治法（昭和22年法律第67号）第252条の19第1項の指定都市を除き、同法第284条第22項の一部事務組合を含む。）立の小学校、中学校若しくは義務教育学校又は県立学校に勤務する教諭、養護教諭、栄養教諭又は実習助手（以下「教諭等」という。）
- (2) 研修を実施する年度の4月1日において、45歳以下で静岡県内において前号の教諭等としての職務経験が5年以上の者
- (3) 研修を実施する年度に、「中堅教諭等資質向上研修」又は「教員免許更新講習」の対象でない者

(研修先)

第4条 研修先は、研修の目的を達成するためにふさわしい民間企業等とする。

(研修生の決定等)

第5条 県教育委員会教育長（以下「教育長」という。）は、研修対象者の中から研修生を決定し、所属長を通じて、研修対象者にその旨通知する。

(研修先及び研修期間の決定)

第6条 研修先及び研修期間については、研修生の特性等を考慮し、所属長と協議の上、教育長が決定する。

(研修生の身分)

第7条 研修生の所属校は、派遣前の在籍校とする。

- 2 研修期間は、教育公務員特例法（昭和24年法律第1号）第22条第3項（教育公務員特例法施行令（昭和24年政令第6号）第10条第2項の規定により準用する場合を含む。）の規定による長期研修のための出張とする。

(研修生の服務等)

第8条 研修生は、研修期間中、研修先の服務規程に従い、研修に専念する。

- 2 研修生は、研修期間中に研修先において知り得た秘密を他に漏らしてはならない。

(給与等の支給)

第9条 研修生の給与及び旅費は、県教育委員会が支給する。

(研修の報告)

第10条 研修生は、研修期間中、毎月、実績簿(様式第1号)及び月別報告書(様式第2号)を作成し、翌月の5日(週休日の場合は翌日以降の週休日でない日)までに所属長に提出し、所属長はその写しを別に定める手順に従い県教育委員会に提出する。

2 研修生は、研修終了日の翌月の20日までに、研修報告書(様式第3号)を所属長に提出し、所属長はその写しを別に定める手順に従い県教育委員会に提出する。

(災害に対する措置等)

第11条 研修中の災害及び研修先への通勤による災害については、県の公務上の災害又は通勤による災害として取り扱う。

(研修の中止等)

第12条 教育長は、次の各号のいずれかに該当する場合は、研修を中止又は中断することができる。

- (1) 研修生の研修実績が著しく不良である場合
- (2) 研修命令に違反する行為、非行その他の理由により、研修生として適格性に欠けると認められる場合
- (3) 研修生の心身の故障のため、研修の継続が困難になった場合
- (4) 研修先を取り巻く状況の変化により、研修の継続が困難になった場合
- (5) 研修先が重大な法令違反行為を行ったと認められる場合
- (6) その他やむを得ない理由により、教育長が研修を中止又は中断する必要があると認めた場合

(協定の締結)

第13条 教育長は、研修に関する協定を研修先と締結するものとする。

(事務主管)

第14条 この要綱に定める研修に関する事務は、教育政策課において行うものとする。

(委任)

第15条 この要綱に定めるもののほか、必要な事項は教育長が別に定める。

附 則

この要綱は、平成23年4月1日から施行する。

附 則

この要綱は、平成31年4月1日から施行する。

附 則

この要綱は、令和2年4月1日から施行する。

令和元年度 民間企業等長期派遣型研修報告書

発行 令和2年8月

発行者 静岡県教育委員会

編集 教育政策課

〒420-8601 静岡市葵区追手町9番6号

TEL 054-221-3674

富国 有徳の理想郷—しずおか



ふじのくに

Shizuoka Prefecture